



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

茨城県支部

日赤茨城

2022. 夏号

Red Cross Ibaraki

事業
報告



～ 青少年赤十字は100歳を迎えました ～

日本赤十字社は、1922年から子どもたちのやさしさや思いやりを引き出し、育てる「青少年赤十字（JRC）事業」を続けており、今年で創設から100周年を迎えました。

茨城県支部では、今年度、JRC創設100周年の記念大会や作品コンクールなどの記念事業を展開します。

また、ウクライナ人道危機救援金の募集活動を通して、「人のいのちと健康、尊厳を守る」ための様々な赤十字活動を展開してまいります。

JRC：青少年赤十字の英訳 Junior Red Cross の頭文字をとった略称



ウクライナでの救援活動

©ウクライナ赤十字社

発行元

日本赤十字社 茨城県支部

〒310-0914 茨城県水戸市小吹町 2551

TEL.029-241-4516 FAX.029-241-4714

県内の赤十字活動をSNSで発信中!





青少年赤十字 創設100周年



スローガン

～ 未来のあなたへ、やさしさを。～

※あなたとは、You (他人) や I (自分) を幅広く意味します

●青少年赤十字の誕生

1914年 第一次世界大戦時にカナダ、アメリカ等の児童・生徒が、戦場となったヨーロッパの子どもたちや戦傷病者などに慰問品を送る活動を実施したのが青少年赤十字のはじまりです。

1922年 日本では、大正11年、滋賀県の守山小学校で少年赤十字団がはじめて結成されました。

1923年 茨城県では、笠間、下館、大和の3地区で少年赤十字団が最初に結成されました。

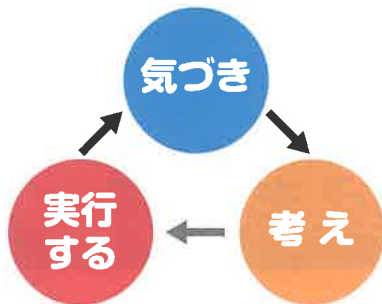
●青少年赤十字 (JRC) とは

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人のびととの友好親善の精神を育成することを目的とした事業です。



茨城県の加盟校数 346校 メンバー数 約65,000人 (令和4年7月末現在)

●「やさしさ」と「思いやり」の心を育てる3つの態度目標



気づき (ニーズの発見)

身近で起きている問題に気づくことが出発点です。

考える (ニーズに応える活動の設定)

問題解決に向けて、相手が本当に困っていることは何かを考え、そして解決策を探します。

実行する (計画して実行)

アイデアを実現する実行案を考え、実行します。

実行後は、しっかりと振り返り、次の活動に活かします。

●「人の役に立つ」ための3つの実践目標



健康・安全 (生命と健康を大切にする)

【活動例】 救急法や防災の知識・技術を身につける

奉仕 (人のために尽くす責任を自覚し、実行する)

【活動例】 清掃活動、募金活動、地域のお年寄りとの交流

国際理解・親善 (広く世界を知り、仲良く助け合う精神を養う)

【活動例】 海外メンバーとの交流、飢餓や難民に関する学習

青少年赤十字メンバーは、3つの態度目標から、活動するうえでの必要な方法を学び、3つの実践目標から具体的な活動を考え、「人を救う＝人道」を学び・実行します。

やさしさと思いやりの精神をはぐくむために

当支部は、JRC創設100周年の節目を迎え、記念大会、作品コンクール、記念誌発行などの取組みを通して、JRCメンバーが身の回りの環境から広く世界に目を向け、自分の未来とやさしさについて考える機会を提供してまいります。

JRC県大会

県内のJRCメンバーが、決意を新たにして青少年赤十字の3つの態度目標・実践目標をもとに、活動をする事を誓い合うため、11月2日(水)、ザ・ヒロサワ・シティ会館にて記念大会を開催します。

作品コンクール・展示会

国内外におけるやさしさと思いやりあふれる社会の実現に向けて意識を高めるため、標語・絵画・書道・動画のコンクールを開催します。

優秀作品は、11月2日(水)～6日(日)の期間、ザ・ヒロサワ・シティ会館にて展示します。

シンボルツリー植樹プログラム

赤十字とJRCのシンボルツリーである「イトスギ」をJRCメンバーが植樹しました。
※イトスギは、赤十字の発祥の地となったソルフェリーノの丘に群生していたことに由来します。



植樹を行う JRC メンバー (佐和高等学校)



イトスギの前で集合写真 (常総学院高等学校)

世界で苦しんでいる 誰かのために



文化祭での募金活動 (霞ヶ浦高等学校)

令和4年2月、ロシアによるウクライナ侵攻からはじまったロシアとウクライナによる紛争は、多くの犠牲者を出し、未だ収束のめどがたっていません。

日本赤十字社は、直ちに「ウクライナ人道危機救援金」への協力を呼びかけ、7月末時点で約54億円(当支部には約3千万円)の金額が寄せられました。

また、JRC加盟校では、文化祭などで募金活動を行うなど、多くの学校が参加・協力しています。

救護体制の充実強化

【災害救護訓練で医療チームの連携を確認】

当支部は、大規模地震により多数の負傷者が発生したとの想定で、本年6月24日・25日、水戸・古河赤十字病院の医療チームなど、約50人が参加し災害救護訓練を実施しました。

本訓練は、医療チームが連携し、的確かつ迅速に救護活動が展開できることを目的としています。

また、アプリを活用した災害診療記録の報告など、救護要員のスキルアップ研修も実施しました。



【市町村へ災害救護資機材を配備】

当支部は、災害救護体制の充実強化を図るため、計画的に県内全市町村へ救護車両等の災害救護資機材を配備しています。配備した資機材は、災害時だけでなく、平時に行う地域の社会福祉活動などにも活用されています。



災害救護資機材名	令和3年度配備先
軽ワンボックス	古河市、常陸大宮市、河内町
普通車ライトバン	東海村、美浦村
簡易型テント	鉾田市、下妻市、常陸太田市
災害物資倉庫	潮来市



私たちは赤十字サポーター

【～和菓子を食べる社会貢献～ 赤十字を支援する和菓子自動販売機】

2017年から日本赤十字社への寄付つき商品「きぬのまゆ玉」を販売し、日赤に支援を続けている筑西市の和菓子屋「館最中本舗 湖月庵」さまが、この度、和菓子販売する自動販売機を店頭で設置し、その売り上げの一部を日赤に寄付する試みを始めました。

和菓子の自販機から寄付をいただくのは、日赤では全国初となります。

湖月庵の上野社長は、「楽しく商品をお買い上げいただき、長期間にわたり社会貢献ができる“日本赤十字社への寄付つき商品プログラム”を他の事業者にも始めてもらうきっかけになりたい。」と話します。

当支部は、企業様の社会貢献を後押しいたします。



上野社長と支援型自販機

【寄付つき商品プログラムの特長】

- ・お客様と企業がともに進める社会貢献 商品の売り上げの一部が、赤十字の活動を支援します。
 - ・ブランディングの向上 自社や商品のブランディング向上に寄与します。
- プログラムの詳細については、日本赤十字社茨城県支部 組織振興課までお問い合わせください。

寄付者さまの声 ～母の意思を継いで、これからも～

赤十字へ支援を続けている寄付者の方に「寄付のきっかけやその思い」を伺いました。

数年前、いつも強気で丈夫だった母が入院し、「私の世話をしてくれた看護師さんは、若いのにしっかりして面倒見がいい」と人を誉める姿を見て、私は母の人生の到達点を意識しました。「看護師さんを養成している団体に寄付をしては」と母に勧めると、「そうして」の一言で、日赤への寄付が始まりました。

これまで子どもや孫を育ててきた母が、今度は、寄付という形を通して看護師の“たまご”を育てているのだと思いました。

その母も病には勝てませんでした。毎年看護師さんが巣立っていき今もどこかで頑張っていることで、母の思いも生き続けていることが、これからも支援を続けていく私の大義です。



寺門支部長から感謝状を受けとる寄付者さま (左)

多様化・甚大化する自然災害のなかで、被災された方々の健康を守るため、活動資金を財源に、例えば、次のような救援物資が整備できます。

毎月5,000円のご寄付で **緊急セット×年間50人分**

避難所生活の時に必要となる日用品一式をお渡しし、被災された皆さまの健康を守ります。



ご協力方法



お振込：本紙に付属した払込取扱票（ゆうちょ銀行）をご利用ください。



クレジットカード：ホームページからお手続きください。



遺贈（遺言や相続財産による寄付）：資料を送付のうえ、詳細をご説明します。

この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。ご賛同いただきましたら、ご支援いただけると幸いです。

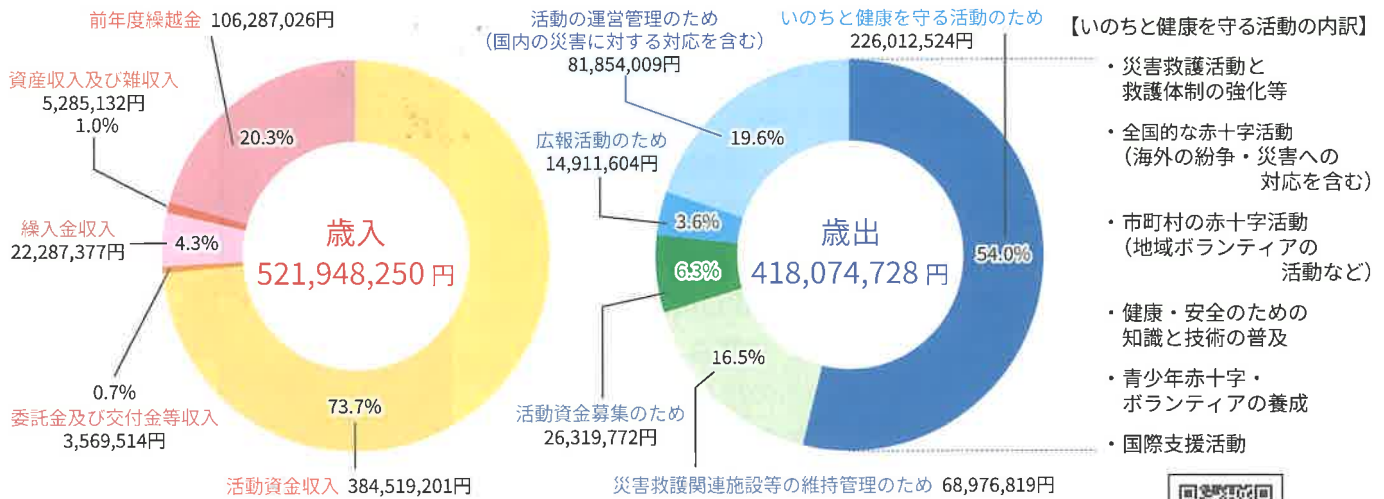
99	東京	払込取扱票												
口座記号番号														
0	0	1	0	0	0	7	8	9	8	7	2			
加入者名 日本赤十字社茨城県支部						金額	千	百	十	万	千	百	十	円
おとことろ ※						料金	/		備考	免				
ご依頼人・通信欄						地区区分扱い会員SC								
おなまえ ※						<input checked="" type="checkbox"/> お礼状と領収書が不要な場合は <input checked="" type="checkbox"/> をお願いします。 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/> このチラシをどこで手にしましたか <input checked="" type="checkbox"/> をお願いします。 <input type="checkbox"/> 市報・町内会の図覧 <input type="checkbox"/> イベント <input type="checkbox"/> 赤十字講習 <input type="checkbox"/> 当支部からの郵送 (救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習) <input type="checkbox"/> その他() R4 日赤茨城(夏号)								
お電話番号														
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号東第53203号) これより下部には何も記入しないでください。						日附印								

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	0	1	0	0	0		
加入者名	日本赤十字社茨城県支部							
金額	千	百	十	万	千	百	十	円
おなまえ	ご依頼人						様	
料金	日附印						備考	
						免		

この受領証は、大切に保管してください。

令和3年度 茨城県支部 決算報告



活動資金の使いみちを動画で紹介!

翌年度繰越額 103,873,522円 (当支部は、多発する災害に迅速に対応するため、活動資金を繰り越しています。)

※水戸・古河赤十字病院、茨城県赤十字血液センター、日本赤十字社茨城県支部乳児院については、施設ごとの特別会計のため、上記決算には含まれておりません。

第133回 支部評議員会をハイブリッド型で開催

6月17日、茨城県支部において、寺門一義支部長出席のもと、評議員会を参集とオンラインのハイブリッド型で開催しました。

会議では、各施設における令和3年度の事業報告及び収支決算報告について審議し、全議案とも原案どおり承認されました。



資金の有効活用のため、この受領証をもって日本赤十字社の受領証にかえさせていただきます。
なお、本受領証は、免税証として利用いただけます。

払込みいただいた金額は個人については、所得税法第78条第2項第3号の規定に基づく寄付金に該当し、法人については、法人税法第37条第4項に基づく寄付金に該当します。

〒310-0914 日本赤十字社
茨城県支部 組織振興課
電話 029-241-4516

- (ご注意)
- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
 - ・この用紙は、ATMではご利用いただけません。
 - ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
 - ・この用紙による、払込料金は無料となります。
 - ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとこと、おなまえ等は、加入者様へ通知されます。
 - ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。

町内会・自治会を通したご協力のほか、ご都合にあった方法で受付けております。
この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。